

時代が変わっても 労働運動は 変わらない！！

国労千葉地本運輸区統合分会 SOGA 班新聞

新春労働講座 ①

講演「この間の経験とこれからの運動」 講師：寺尾勉氏（退職者の会前事務局長）

コロナ禍を挟んで、久しぶりにまとまった形での新春労働講座、そのあとの旗開きであるとのことでした。地本役員、各分会、各職協、OBらが集まり、1月13日（土）13時〜西千葉駅近くのみどり寿司にて開催されました。
この日、講師を務めた寺尾さんは、保線OBであり、昨年末の退職者組合総会で退任されるまで、長く事務局長として尽力されてきました。お疲れさまでした。

手探りで始まった 寺尾さんの鉄道人生

昭和40年、熊本から7人、集団就職で千葉に来て、組合運動なども全く分からず、管理者の言うことは常に正しいという認識でしかなかった話から始まりました。

人生を変えた 運命の出会い

短期間で、数ヶ所の保線職場をたらい回しにされたが、おかしいとは思わなかったというこ

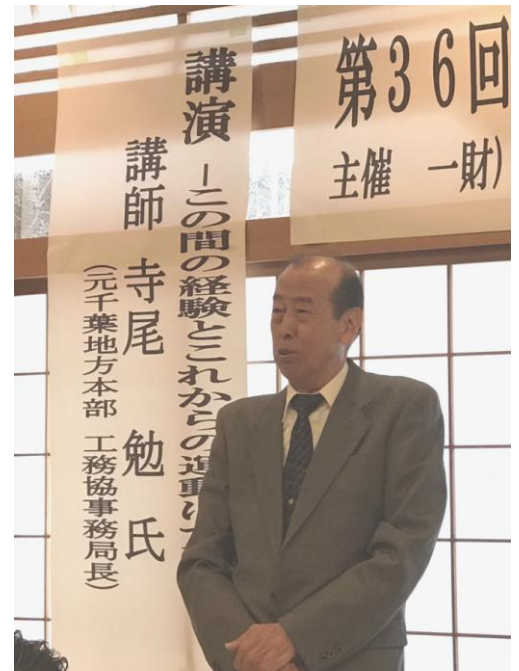
とでした。が、千葉保線区に他3名と配属になった時、そのメンバーの中に歴代地本委員長を務める人たちが、その内の一人が「私はここに組合運動をやりに来ました」という転任あいさつを聞いた時、「とんでもない人がいる」と、自分の運命が決まったということでした。何とも劇的なお話ですが、やはり国労運動に真剣に関わってきた人には、少なからず

こういったエピソード、キング的な出会いの瞬間があったのではないのでしょうか。それまで組合のことなど、全く知らなかった当時の寺尾さんにとって、それは衝撃的な瞬間であり、のちの人生が大きく変わっていったのだと思います。
思うように進まない労働者意識の拡大
自分は、昭和40年代には、のちにも続く国労運動が既に確立されていたという認識でしたが、当時の職場は99%国労組合員であっても、運動らしい運動もなく、分会

話し合わなければ、
運動は始まらない！

長は管理者と同じだったという報告にショックを受けました。

そんな中で始まった寺尾さんの組合運動は、先の先輩役員に就いて回り、色々な話をしながら学び、まとまっていなかった職場を変えていくことと必死に頑張りました。最初は誰にも相手にされず、協力的でもない状況でしたが、諦めず話し合いを日常化し続



けることで、少しずつ集会にも人が集まるようになってきたとのこと。その間、先輩役員から「諦めたら終りだ」という言葉と共に毎日のように議論し合い、色々な本を読まされたことが力になったようです。この辺の苦労は、私ごとですが言つのもはばかれますが、本当に大変だったろうなと思います。労働運動の「ろ」の字もなかった職場にゼロから始めていったわけですから……。 (つ

☆ その後、寺尾さんは25歳で分会書記長になったとのこと。これはすごいことだったと思います！！